

平成21年度 新聞記事等一覧 (7月分)

掲載年月日	媒体名	記事(番組)表題	記事(番組)内容	掲載関係者・部局等
1	7月2日 日本経済新聞	9面 きょういくQ&A 共同大学院	東京農工大学が、早稲田大学との共同大学院設立を進めていると紹介。	
2	7月3日 科学新聞	5面 フカヒレ以外の活用 「アンモニア臭」除去 サメを丸ごと化粧品・食品に	東京農工大学野村准教授が、サメの独特のアンモニア臭を除去し、皮・肉・軟骨等も有効利用する技術開発に成功したと紹介。	農学部附属硬蛋白質利用研究施設 野村 義宏 准教授
3	7月6日 日刊工業新聞	5面 未来思考 経営戦略58 伊良部の再チャレンジ	東京農工大学林教授が、再びメジャーリーグを目指す伊良部投手が所属する独立リーグを例に、若手がプロになるためのベースキャンプをどう提供し、才能を伸ばすための支援をどうすべきか。人材が育つ企業とスカウトの関係。人材ミスマッチの解消へ官民で知恵を絞りたいと解説。	技術経営研究科 林 志行 教授
4	7月7日 日刊工業新聞	23面 農学系ポスドクの就業体験 東京農工大が本格実施 参加対象校を全国規模に	東京農工大学アグロイノベーション高度人材養成センターが、農学系の博士学生・博士研究員(ポスドク)の就業体験(インターンシップ)の対象を、全国国公私立大学に広げると紹介。	アグロイノベーション高度人材養成センター長 西川 淳 教授
5	7月7日 水産経済新聞	2面 記者席 魚が釣り出す団らん笑顔	東京農工大学高田教授が、合成洗剤に含まれる蛍光増白剤は、光による分解でしか自然に還る方法がなく、汚れた海ではまず分解されないと解説。	共生科学技術研究院 高田 秀重 教授
6	7月8日 読売新聞	28面 大学の實力 教育力向上の取組調査 上 学習支援知恵絞る	東京農工大学小畑学長が、読売新聞社が実施した第2回「大学の實力 教育力向上の取組み」調査の学長コメント欄に、職員の企画・立案に期待とコメントしたことを紹介。また、記事中の表に東京農工大学の調査結果を紹介。	学長 小畑 秀文 学長
7	7月8日 水産経済新聞	1面 東京農工大学高田(教授)講師 低濃度でも忌避行動 合成洗剤汚染を論じる 「東京湾に流れ込む化学物質」勉強会	東京農工大学高田教授が、消費者団体主催の勉強会で、東京湾周辺の合成洗剤汚染を中心に、合成洗剤に含まれる界面活性剤は自然界で分解されにくいと解説。	共生科学技術研究院 高田 秀重 教授
8	7月9日 日経産業新聞 (日経テレコン21)	10面 東京農工大 土壌の害虫、素早く検出 DNA利用 4時間で種類特定	東京農工大学豊田准教授が、土壌中の害虫(線虫)の種類を遺伝子検査によって4時間で特定する技術を開発したと紹介。	共生科学技術研究院 豊田 剛己 准教授
9	7月9日 日経産業新聞 (日経テレコン21)	17面 遺伝子改変サル、評価1位 2009年度技術トレンド調査(第2回) 難病解明へ親子で比較脳疾患薬の開発に活用へ	東京農工大学が、日本経済新聞社が2009年3～5月に公表された主要な研究を評価する「技術トレンド調査」において、「実用+市場+話題」評価の第3位に日本ケミコンなどと開発した「リチウムイオンキャパシター、蓄電要領3倍に」がランクインと紹介。	共生科学技術研究院 工学部 直井 勝彦 教授 玉光 賢次 客員教授
10	7月9日 朝日新聞	9面 ブラックバス類などの規制強化から4年 市民が主役、地道に駆除 在来種の水揚げ低迷	東京農工大学角田特別研究員が、05年から08年度に農業用ため池でブラックバス類の駆除と在来種の回復の関係を調べたと紹介。	角田 祐志 特別研究員
11	7月11日 広報ふちゅう	8面 官公庁から 東京農工大学科学博物館「子供科学教室」	東京農工大学科学博物館「子供科学教室」の開催案内(7/25開催分)。	工学部 中澤 靖元 助教
12	7月12日 日本テレビ	テレビ ゼ! 鉄腕! DASH!!	東京農工大学科学博物館所蔵の「蚕織錦絵」の画像が、「ソーラーカー日本一周! ~八丈島~」編で、室町時代から伝わる絹織物「黄八丈」を紹介する際に放映。	科学博物館 朝倉 哲郎 館長 中澤 靖元 助教
13	7月13日 日刊工業新聞	4面 未来思考 経営戦略59 スーツ寄付で社会貢献	東京農工大学林教授が、ニート・ひきこもりと呼ばれる若者達へ若年者就労訓練プログラムを実施するNPO団体が不要となったスーツの寄付を求めていることを紹介し、不要となったスーツ類を寄付することは社会貢献事業への参加の良い機会ではないかと解説。	技術経営研究科 林 志行 教授
14	7月13日 トレインチャンネル	中央線車内モニター 東京ぶらぶら散歩 東小金井	東京農工大学科学博物館が、中央線トレインチャンネルで所蔵品とともに映像で紹介。	科学博物館 朝倉 哲郎 館長 中澤 靖元 助教
15	7月14日 日刊工業新聞	23面 共同研究機構「アグロ・メディカル・イニシアティブ」 食品と健康の関係探る	東京農工大学アグロイノベーション高度人材養成センターが、農学研究者は本学の教員が中心となる共同研究機構「アグロ・メディカル・イニシアティブ」の事務局になると紹介。	アグロイノベーション高度人材養成センター長 西川 淳 教授

掲載年月日	媒体名	記事(番組)表題	記事(番組)内容	掲載関係者・部局等
16	7月14日 日刊工業新聞	23面 変革期の大学発ベンチャー 日本型確立へ 第4部 モノづくりで連携 JITSUBO 化学物共同開発しM&A ペプチド合成技術に強み	東京農工大学発ベンチャー企業のJITSUBOが、会社をまるごとM&A(企業の合併・買収)するのではなく、顧客との共同開発で実用化が近づいたら、関連の同社の知をひとまとめにし、売却することを構想している。また、同社と千葉研究室のそれぞれが組む企業の間で競合が生じないように注意し、大学との間では相乗効果と線引きの両方について常に意識していると紹介。	連合農学研究科 千葉 一裕 教授
17	7月14日 読売新聞	16面 第2回「大学の實力」調査から 83%が「保護者会」実施	東京農工大学の取組みが、読売新聞社が実施した第2回「大学の實力」教育力向上の取り組み、調査の分析記事中の表で紹介。	学長 小畑 秀文 学長
18	7月15日 日刊工業新聞	1面 排ガス用触媒 白金代替、価格1/10 NEDOなど 炭素合金を開発	東京農工大学亀山教授が、独立行政法人新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO)宮田シニアプログラムマネージャー及び素材メーカーとの共同研究で、自動車の排ガス処理で大量使用される白金触媒を、低価格原料だけで代替するカーボンアロイを開発したと紹介。	技術経営研究科 前学長 亀山 秀雄 教授 宮田 清蔵 前学長
19	7月16日 日経産業新聞 (日経テレコン21)	14面 先端人 シリコンを様々に加工 超音波素子、実用化へ	東京農工大学越田特任教授が、これまでの研究活動を紹介しますとともに、シリコンを巧みに使って光や電子、音、熱を出す素子に仕上げたと紹介。	工学府 越田 信義 特任教授 (本学名誉教授)
20	7月20日 日刊工業新聞	4面 未来思考 経営戦略60 選挙のパラドクス	東京農工大学林教授が、衆議院総選挙が決まったことから米国の著者の本を例に、米国及び日本の選挙におけるウェブコミュニティの活用状況を紹介します。日本では政治家を育てるためのプロセスが無視されている。それぞれの地域で育つ環境を意識したいと提案。	技術経営研究科 林 志行 教授
21	7月20日 朝日新聞	33面 「出版会」で大学売り込め 国立大、法人化で倍増 「地域性」も活用しPR	東京農工大学出版会が、学内組織(直営)ではないことを紹介するとともに、小野副学長のコメント、教科書や学術書ではなく、一般書を中心に据えていること及びこれまで出版した本のページ構成に特徴があることを紹介。	副学長 小野 隆彦 副学長
22	7月23日 日刊工業新聞	13面 バイオマスで共同研究 日本製紙 東京農工大などと	東京農工大学小関教授が、独立行政法人新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO)の助成により、筑波大学、日本製紙と共同で、塩害地、乾燥地などでも生産性の高い木質バイオマス燃料向けの樹木に関する研究開発を始めると発表。	共生科学技術研究院 小関 良宏 教授
23	7月25日 朝日新聞	201面 フロントライナー 大学生協店長 白石 昌則さん(40歳) 「無駄に陽気」で逆風に挑む	東京農工大学広報大使の白石氏が、東京インターカレッジコープ店店長の活動の様子とともに、東京農工大学生協勤務時の経験及び「ひとことカード」への回答方法などを紹介し、売れる商品は買う側が決める。利用者ニーズをくみ取っていききたいと抱負を紹介。	白石 昌則 広報大使
24	7月25日 日経サイエンス	108面 個性派ミュージアム巡礼 SPECIAL大学博物館特集 好奇と実学の館へ 衣を紡ぐ 東京農工大学科学博物館	東京農工大学科学博物館が、沿革及び機会展示室の所蔵品が動態保存であることを写真入りで紹介。	科学博物館 朝倉 哲郎 館長
25	7月26日 日本農業新聞	1面 野菜加工・業務用取引 産地8割前向き 農畜産振興機構まとめ 手取り安定歓迎	東京農工大学野見山教授が、農畜産振興機構と共同で野菜を扱うJA及び農業生産法人に加工・業務用取引に関する調査を行ったと紹介するとともに、野見山教授のコメントを紹介。	共生科学技術研究院 野見山 敏雄 教授
26	7月27日 日刊工業新聞	4面 未来思考 経営戦略61 選挙の争点は「一気に変革」	東京農工大学林教授が、企業経営者の著書から、日本の戦後復興は先輩たちの公職追放により、企業の40歳前後の部・課長が経営革新に乗り出すエネルギーを持っていた。一斉に若返ることが大事と指摘していることを例に、社会システム全体が、古い体質を変えようとしないと変革は貫徹しない。一気に変える方が良いと提案。	技術経営研究科 林 志行 教授
27	7月28日 日本経済新聞	39面 農工大発VBに「挑戦支援融資」 日本公庫三鷹支店 劣後ローン、多摩で初	東京農工大学発ベンチャー企業のJITSUBOが、日本政策金融公庫三鷹支店がベンチャー企業向け劣後ローン「挑戦支援融資制度」を同社に実施したと発表し、多摩地区で初の融資であると紹介。	連合農学研究科 千葉 一裕 教授
28	7月28日 日刊工業新聞	29面 昨年度の産学連携 特許権実施額27%増 技術移転で東大ダントツ 共同研究 中堅大・私大が健闘	東京農工大学が、文部科学省がまとめた2008年度の産学連携実施状況において、中小企業対象の共同研究金額で5位(共同研究全体では12位)になったと紹介。	
29	7月29日 日刊工業新聞	38面 農工大発VBに1500万円融資 日本公庫三鷹	東京農工大学発ベンチャー企業のJITSUBOが、日本政策金融公庫三鷹支店が挑戦支援融資制度を適用し同社へ融資を実行し、東京・多摩地域では初の実績と紹介。	連合農学研究科 千葉 一裕 教授
30	7月29日 建設工業新聞	2面 亜酸化窒素を簡易計測 微生物の酵素利用 鹿島、東京農工大	東京農工大学及び鹿島建設株式会社が、温暖化ガスの一つである亜酸化窒素(N2O)を微生物の酵素を利用して簡易かつ安価に計測できるバイオセンシング技術を開発したと紹介。	共生科学技術研究院 早出 広司 教授 津川 若子 准教授

掲載年月日	媒体名		記事(番組)表題	記事(番組)内容	掲載関係者・部局等	
31	7月29日	建設通信新聞	3面 鹿島 N2O効率的に測定 バイオ活用、コストも抑制	東京農工大学及び鹿島建設株式会社が、温室効果ガスの亜酸化窒素(N2O)を効率的に検出・測定するバイオテクノロジーを使った世界初の技術を共同開発したと紹介。	共生科学技術研究院	早出 広司 教授 津川 若子 准教授
32	7月29日	建設産業新聞	2面 N2Oをバイオで検出・測定 微生物の酵素を利用 鹿島	東京農工大学及び鹿島建設株式会社が、地球温暖化ガスの1つである亜酸化窒素(N2O)をバイオテクノロジーで検出・測定する技術を共同研究により、世界で初めて開発したと紹介。	共生科学技術研究院	早出 広司 教授 津川 若子 准教授
33	7月29日	化学工業日報	11面 鹿島、N2Oの新測定手法 バイオ技術で検出 オンサイト型 発生抑制に寄与	東京農工大学及び鹿島建設株式会社が、共同研究により、亜酸化窒素(N2O)をバイオテクノロジーで検出・測定する技術を世界で初めて開発したと発表したことを紹介。	共生科学技術研究院	早出 広司 教授 津川 若子 准教授
34	7月31日	科学新聞	11面 平成21年度科学研究費補助金 トップ300機関ランキング	東京農工大学が、平成21年度科学研究費補助金トップ300機関ランキングの29位(採択金額合計)と紹介。 特別推進研究、新学術領域研究、基盤研究(S)、若手研究(S)および若手研究(スタートアップ)の新規課題を除く。		